

古墳時代の松浦(2)

長崎県内では、めずらしい古墳時代の竪穴式住居跡(四世紀後半から五世紀代)が志佐町宮ノ下り遺跡から2棟発見されています。大きさは、ともに一辺が3×5メートルの方形をしています。床面の掘り込みは、10センチと浅くなっています。これは、竪穴の上面が水田耕作で削り取られていたためで、中央部には焼土があり、柱穴の小穴も発見されています。竪穴式住居はこのように地面を掘り下げ、柱を土の中に立て屋根を葺いた住居を呼んでいます。

住居跡の南側には、同時期の埋葬施設である長さ約1・5メートル、幅0・5メートルの箱式石棺墓も発見しています。石棺の蓋石には玄武岩の板状石を21枚いわゆる刺身状に順次重ねています。石棺の側壁にはそれぞれ5枚、被葬者の頭部にあたる所には2枚の石材が用いられています。被葬者の胸の部分にあたる所から生前使用していたと思われる328個のガラス玉が見つかっています。

宮ノ下り遺跡は、県営圃場整備事業に伴う確認調査で住居跡2棟・石棺墓1基が発見されています。これは宮ノ下り遺跡の集落の一部の調査あり、このほかにもまだかなりの住居跡等が水田下に眠っていると思われる。古墳時代の集落の様子を研究する上で大変重要な遺跡であります。



▲宮ノ下り遺跡の箱式石棺墓



コラム

クリス先生
(アメリカ出身)

Island Life 島の生活

こんにちは、クリス・ブライデンです。鷹島に住んでいます。1年前に自分が鷹島に行くと思ったとき、孤立して一人ぼっちになってしまうのではないかと心配しました。しかし、日本での新しい経験、地元の人々とふれあいが持てることにワクワクもしました。鷹島で暮らして約10ヶ月が過ぎましたが、私が来る前に感じていた心配はなくなり、とてもいい経験をしていることが嬉しいです。

鷹島の一番すばらしいことは、何といても人々です。小さな学校は、生徒たちと一対一で交流がもてます。先生方や職員の皆さんもすばらしいです。それから、月に数回の公民館での英会話教室も楽しく行っています。子どもたちのクラスでは英語を使ったゲームをしたり、大人のクラスでは文化について話したりしています。地元での買い物も大好きです。お店の人はいつもとても親切です。また島の人たちとテニスをしたり、カラオケで歌ったりして楽しい時間を過ごしています。それから、私の住宅の近くにあるレストランに行くと、いつも誰かが飲み物や食べ物をご馳走してくれます。

このような寛大で友好的な人々が、鷹島のすばらしいところであり、私もここに住めてとても幸せです。アメリカに戻っても、この島の人々とここで得た友情を決して忘れることはないでしょう。

